

令和元年6月17日現在

機関番号：32660

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17369

研究課題名（和文）シュタイナー学校における道德教育と芸術教育の関連性の解明

研究課題名（英文）Elucidation of the Relationship between Moral Education and Art Education in Steiner School

研究代表者

井藤 元（ITO, GEN）

東京理科大学・教育支援機構・准教授

研究者番号：20616263

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題をつうじてシュタイナー教育において芸術教育と道德教育が不可分の関係にあることが解き明かされた。芸術教育をつうじて道德教育が果たされるのである。本研究では、その独自のカリキュラムを支える思想的基盤を明らかにすることができた。また、シュタイナーの道德教育においては、自己解放に基づく「笑い」が極めて重要な要素となっており、そうした「笑い」は「自由」へと通じてゆく。シュタイナーの人間形成論において、自由の獲得は最重要テーマであるが、シュタイナー教育における「笑い」の位置づけを解き明かすことによって、そこでの道德教育のあり方の本質が浮き彫りになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題での成果は、道德教育が教科となった現代の我が国の教育をめぐる現状に対して多くの示唆を与えるものであるように思われる。とりわけ、公立学校におけるシュタイナー教育の実践を志した沖縄シュタイナー教育実践研究会での取り組みにかかわることにより、シュタイナー教育を「閉じた」コミュニティーにおける特殊な実践とみなすのではなく、そのエッセンスを吸収しながら、一般的な公教育の中で取り入れてゆく可能性を見出すことができた。

研究成果の概要（英文）：Through this research, it was revealed that art education and moral education are inseparably related in Steiner education. Moral education is accomplished through art education. In this study, we were able to clarify the foundation supporting the unique curriculum of Steiner School. Also, in Steiner's moral education, "laughing" is an extremely important element, and such "laughing" leads to "freedom." By analyzing "laughing" in Steiner Education, the essence of the moral education of Steiner School became clear.

研究分野：教育学

キーワード：シュタイナー教育 芸術教育 道德教育 アート ユーモア 笑い

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、わが国においては、「道徳」の教科化の流れが進行している。中央教育審議会「道徳教育専門部会」では、小中学校の「道徳の時間」を「特別の教科」に格上げし、検定教科書を使用するなどの方向で議論が進められている。今後、「道徳」の教科化をめぐることは、刻一刻と状況が変わり、様々な角度からの意見が提示されることが予想される。こうした現状を受け、我々は道徳教育のあり方を今一度、根底から問い直す必要性に迫られているといえるのである。

本研究は、そうした状況にあつて道徳教育のあり方を考えてゆく上で、21世紀型の学習モデルを提唱する教育として世界的に受容されているシュタイナー教育に焦点を当て、そこにおける道徳教育の内実を探ってゆく。シュタイナー教育は、思想家であり教育者である、ルドルフ・シュタイナー (Rudolf Steiner 1861-1925) が生み出した独自の教育実践である。シュタイナー思想 (人智学 Anthroposophie) の及ぶ範囲は、芸術、医学、経済学など広大であるが、なかでも教育分野における受容は目覚ましいものがある。「芸術」を実践の中心に据えたシュタイナー学校の教育実践は世界的に高く評価され、近年、シュタイナー学校は世界規模で急増しており、その数は全世界で 1100 を超えるといわれている。

申請者は、2008 - 2011 年度には基盤研究 (C) 研究課題「ホリスティック教育学の観点による日本のシュタイナー学校の実践事例」(研究代表者：吉田敦彦、研究機関：大阪府立大学) に連携研究者として携わった。また 2013 年 - 2014 年度には、若手研究 (B) 研究課題「シュタイナーの芸術教育を支える人間形成論的構図の解明」(研究代表者：井藤元、研究機関：大阪成蹊短期大学、大阪成蹊大学) において、シュタイナー教育の思想研究を行ってきた。とりわけ、2013 - 2014 年度に採択された研究では、シュタイナーの芸術教育の内実とその思想的背景を明らかにし、イギリスと日本のシュタイナー学校への現地調査を通じて、シュタイナーの教育思想が芸術に満たされた実際の教育実践のうちにいかに結実しているかを解明した。本研究ではそうした成果を踏まえて、それをさらに発展させ、シュタイナーの芸術教育が道徳教育といかなる論理に基づいて連関しているかを解き明かすことにしたい。

2. 研究の目的

シュタイナー学校では、道徳教育をそれだけ切り離して単独で行うことはせず、国語、数学、理科、社会などの各科目のなかで行っている。また、その際には芸術があらゆる科目に浸透しており、この点においてシュタイナー教育は極めてユニークである。すなわち、シュタイナー教育では、すべての教科が芸術で満たされている (教育芸術) のだが、それが同時に道徳教育としても作用しているのである。そうした独特なシュタイナーの道徳教育の在りようをシュタイナー学校での授業観察およびシュタイナー学校の教師へのインタビューをつうじて明らかにしてゆく。またシュタイナー教育では、幼児教育段階からも芸術をつうじて道徳教育が行われているので、シュタイナー幼稚園における幼児教育の実際も調査する。シュタイナーの幼児教育および初等、中等教育において道徳教育がいかに位置づけられ、実際にどのような授業実践が行われているのかを明らかにし、あわせて思想研究により、そうした実践の背景にいかなる思想が潜在しているかを解明することが本研究の課題となる。

3. 研究の方法

教育 (授業) は芸術に満たされていなければならない、そうシュタイナーは著書や講演の中で繰り返し述べている。シュタイナー教育では独自の芸術的実践 (フォルメン線描、オイリュトミーなど) がカリキュラムのうちに組み込まれ、すべての教科に音楽・絵画が取り入れられるなど、芸術活動が日々の学校生活の中で、極めて重要な位置を占めている。そして、シュタ

シュタイナー教育における芸術教育は道徳教育と不可分であり、両者は渾然一体となって、シュタイナー教育のなかで最も重要な位置を占めている。また、芸術教育と道徳教育を自然科学研究が下支えしており、自然への感性を磨くこと、芸術性を育むこと、道徳的に行為すること、これら3つの課題がシュタイナー教育では、同時に遂行されているのである。そうしたシュタイナーの独自の教育思想および道徳教育論は、ゲーテ(Goethe, J.W.)、シラー(Schiller, J.C.F.)、ニーチェ(Nietzsche, F.)の道徳論を背景に据えており、シュタイナーは自らの道徳教育論を構築するにあたって、これらの思想家から多大な影響を受けている。本研究では、この点に焦点を当て、シュタイナーの道徳教育論の思想的背景を明らかにすべく、シュタイナーの道徳教育論の構図を、上記思想家の道徳論との思想的連関を分析してゆく中で浮き彫りにさせてゆく。

また、日本のシュタイナー学校への現地調査と教師へのインタビューを通じてシュタイナー学校における道徳教育の実態を明らかにしてゆく。

4. 研究成果

シュタイナーは「道徳教育は、教師が生徒に対して行うことのすべてに浸透しなければならない」と述べ、子どもに対しては「それだけ切り離された道徳指導を行うよりも、すべての教育や授業を道徳的なものに向けて方向づける方がはるかに高い成果をあげることができる」と主張していた。そして、本研究課題をつうじてシュタイナー教育において芸術教育と道徳教育が不可分の関係にあることの実態が具体的なカリキュラムに即して解き明かされた。シュタイナー学校の授業が芸術に満たされていることは、それが道徳教育に満たされていることと同義なのである。よって芸術が細部に至るまで浸透しているシュタイナー教育においては、あえて道徳の学習に特化した時間を設定する必要はないのである。

また、シュタイナーの道徳教育においては、自己解放に基づく「笑い」が極めて重要な要素となっており、そうした「笑い」は「自由」へと通じてゆく。シュタイナーの人間形成論において、自由の獲得は最重要テーマであるが、シュタイナー教育における「笑い」の位置づけを解き明かすことによって、そこでの道徳教育のあり方の本質が浮き彫りになった。

本研究課題での成果は、道徳教育が教科となった現代の我が国の教育をめぐる現状に対して多くの示唆を与えるものであるように思われる。とりわけ、公立学校におけるシュタイナー教育の実践を志した沖縄シュタイナー教育実践研究会での取り組みにかかわることにより、シュタイナー教育を「閉じた」コミュニティにおける特殊な実践とみなすのではなく、そのエッセンスを吸収しながら、一般的な公教育の中で取り入れてゆく可能性を見出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

井藤元 フォルメン線描における自然認識と芸術的創造—シュタイナー教育の道徳的基盤、ホリスティック教育研究、第20号、36 - 48 頁、2017 年

井藤元 シュタイナー教育における「笑い」の意義 - ユーモアエポックと「自由」、ホリスティック教育研究、第19号、14 - 28 頁、2016 年

〔学会発表〕(計 11 件)

井藤元、不二陽子、シュタイナー教育における「笑い」の意義 「笑い」と「自由」の関連について、日本教育学会、2015 年

浅井宗海、井藤元、教員養成における定型的熟達から適応的熟達に向かうための学習支援システムの構想、日本教育工学会研究会、2015 年

〔図書〕(計 12 件)

尾崎博美・井藤元編、ワークで学ぶ教育課程論、ナカニシヤ出版、264 頁、2018 年
井藤元編、ワークで学ぶ教職概論、ナカニシヤ出版、248 頁、2017 年
井藤元編、ワークで学ぶ道德教育、ナカニシヤ出版、288 頁、2016 年
井藤元編、ワークで学ぶ教育学、ナカニシヤ出版、272 頁、2015 年

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。